



発生前日の7月27日深夜から29日午前中まで北東風が連吹したことにより底層水が湧昇し、青潮が発生したものと考えられた。

この青潮は31日には終息し、漁業被害は報告されていない。

### 3・2 局所的な青潮

上記の青潮の他、発生範囲や継続日数が軽微であったものとして、7月2日に千葉中央港内で海水の変色と魚の浮上が報告されているが、ごく局所的規模であった。

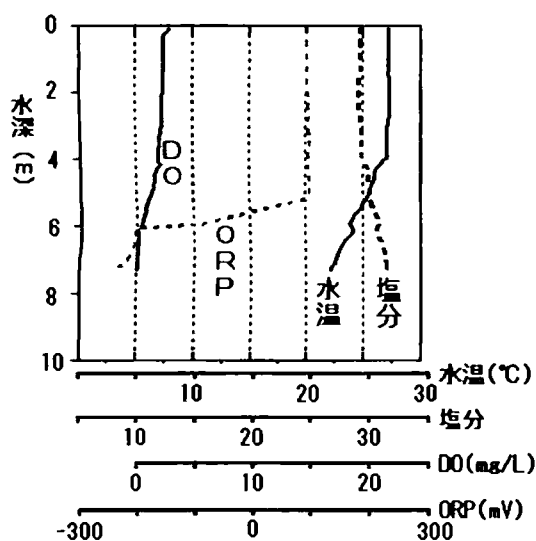


図2 7月28日の幕張沖の水質鉛直プロファイル

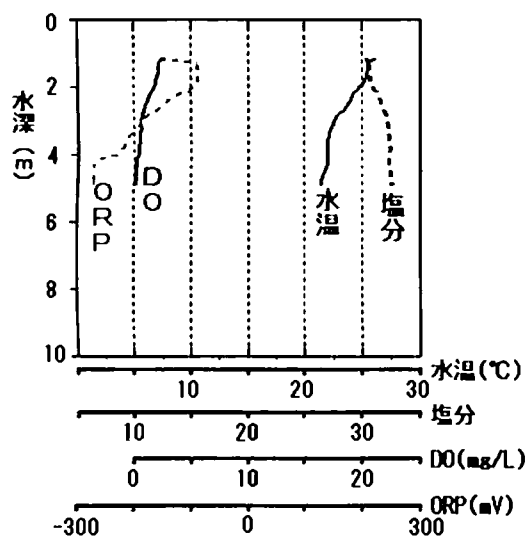


図3 7月29日の京葉港沿岸（測点3）の水質鉛直プロファイル

### 3・3 羽田沖で発生した青潮

東京都環境局によると、2004年8月18日午後、東京の多摩川河口部から羽田沖合に青潮が発生した<sup>1)</sup>。従来から青潮は東京湾内湾の千葉県側に特有の現象と考えられてきた。8月15日に気温が急降下し、翌日から羽田の海岸にとっては離岸風にあたる南西の風が吹いたことにより底層にあった貧酸素水塊が持ち上げられ、この異例の現象が起こったと考えられた。

## 4 まとめ

2004年の青潮発生回数は1回であり、比較的広範囲に発生した。漁業被害の報告はない。

## 謝辞

本調査は千葉県環境研究センターと千葉県環境生活部水質保全課との共同調査であり、ご協力いただいた関係各位に深く感謝します。

## 参考文献

- 1) 風間真理, 渡部健一, 蓬田健児: 東京湾は生きているか. 東京都環境行政交流会誌, 28(2004).

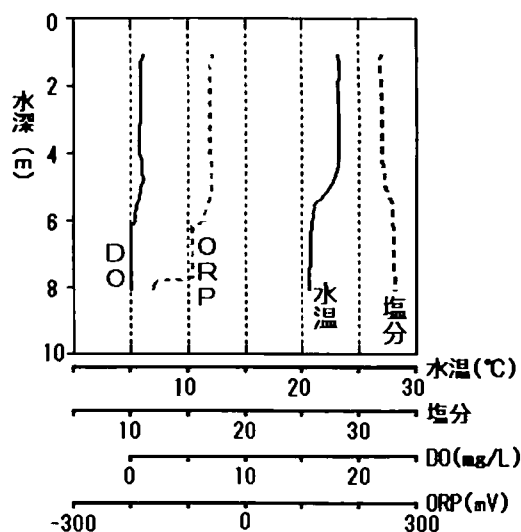


図4 7月29日の稲毛沿岸（測点5）の水質鉛直プロファイル